

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970300402
法人名	有限会社あんしん
事業所名	グループホームあんしん
所在地	奈良県大和郡山市横田町760
自己評価作成日	平成27年9月6日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロー
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成27年10月28日
評価結果決定日	平成28年4月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あかるく・ゆつくり・のんびりとを理念に、ご入所者の一人一人の個性を大切に、「その人らしく」毎日を生きて過ごしていただけるように、笑顔を引き出せるように取り組んでいます。1日の流れは、季節感を大切にしながら、散歩や体操、レクリエーションやゲーム・歌などと、日中を活発に過ごしていただき、生活の不活性化を予防しています。食事は、「食べたい!」と思えるようなものをつくることをこころがけています。常にスタッフ間で情報を共有してケアに努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は古民家を改造され、庭には畑があり、自然豊かな環境で生活されています。施設の中は日当たりや風通しがよく、古民家を利用した昔ながらの懐かしい落ち着いた雰囲気の中、利用者の方と職員が和気あいあいと生活されています。法人代表の方は家族介護の経験からグループホームの必要性や利用者の立場になって考えるなど、毎日が楽しく、過ごせるように支援されています。食事は全て手作りで、素材などにもこだわり、又、ホームの畑で採れた野菜なども料理され、食事が楽しめるように支援されています。ターミナルケアも積極的に取り組まれ、早い段階から利用者、家族と話し合いがなされ、本人及び、家族が希望する時には最後まで自然な形で生活が送れるように支援されています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

ユニット名 ( 南棟 )

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した施設作りを理念とし、職員ミーティング等で、職員への意識づけを繰り返し話し合い、実践していくことを実施している。	「あかるく・ゆっくり・のんびりと」という理念を掲げ、利用者の方が毎日楽しく生活される様に支援されています。会議などにも取り入れられ、職員に周知徹底されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や、地域の行事に参加した時や、当ホームの行事にも地域の方に参加していただき、交流を深めている。	散歩のときに近隣の方にあいさつをされたり、地域の行事に参加されています。又、ホームの行事にも地域の方が参加されたりと、地域との交流を大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長や民生委員の方々とも情報交換をはかり、地域の高齢者も行事に招待している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の時には、ご家族や自治会長や民生委員の方々、地域の方々等にも参加いただき、その機会に運営推進会議を開催し、十分な話し合いの場を持っている。	2か月に1回開催され、参加者は家族、自治会長、民生委員、介護相談員などが参加され、ホームの現状報告や行事の事などを報告し、参加者からの意見も取り込んでサービスの向上に生かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員の方2名が月に2回来て下さり、行事へも参加して下さっているの。相談や援助をお願いできる良い関係が築けている。	市の職員が推進会議にも出席する事で施設の実績を理解してもらったり、職員が市役所に出向き利用者の相談等を行ったりし、協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケア会議などで話し合い、家族の方とも意見交換しながら取り組んでいる。	身体拘束はされていないが、安全を考えられ門に施錠されています。ホームは自由に行き来できるようになっており、身体拘束の研修も行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な、ケアカンファレンスを行い、間違ったケアがないか確認・理解・実行をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者がまず学び、その知識をミーティングで広め、各スタッフの知識とるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理解が得れるまで、分かりやすい説明をしている。改訂がある場合は、事前にご家族に文書で伝え了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入所者のお気持ちは、日々の生活の中で汲み取り、ケアに反映している。ご家族には来所時に面談を行い、意見・要望をうかがっている。	面会時に家族から意見や要望が出され、何でも話せる関係作りをされています。又、家族会議も行われ、意見や要望は、職員間で共有し、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的な会議や、年に2回個人面談を行い、各職員の意見を聞き、可能な限りそれを反映している。	月に2回会議を行い職員から意見を聞く機会を作られています。又、日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダーが年に2回職員の査定を行い、それを給与やボーナス・勤務条件に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供し、各自が自発的に参加し、その内容を次のミーティングに生かしている。ホーム独自の研修は定期的開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、他事業所との情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望は、日々の状態観察や、お話しより汲み取り、不十分な場合はご家族のお話もお聞きして、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に納得を得られるまで、ご家族とのお話の機会を設けて、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に十分な聞き取りを行い、グループホームが適切な施設であるか、適切でない場合は他施設の紹介等の情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入所者の豊富な知識や経験をお聞きし、一緒に考え、共感しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が中心のケアではなく、ご本人とご家族が中心のケアを職員がお手伝いしているという心構えを職員は心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時には、その方の故郷に行ってみたり、お知り合いには積極的に訪問していただき、電話や手紙のやり取りも支援している。	馴染みの方がホームを訪れたり、散歩の時に声を掛けられたりと地域住民の馴染みの人との係わりを損なわない支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの個性を把握し、トラブルの起こらないよう、孤立しないように、職員が間を取り持つように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる方には、退所後も様子を伺い、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の理念でもある、その方らしさを大切に、日々様子を観察し、そこから汲み取れるニーズを生活に反映している。	入所前に本人の家に訪問し、生活環境を観られ、同じ生活が出来るように支援されています。又、本人の希望、家族の希望を聞かれています。入所後も本人の希望に沿って生活されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前も、入所してからも常にご本人の情報収集に努め、馴染みの家具や道具をお持ちいただき、今までの生活により近い形の生活をしていただくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心身の状態に注意し、記録を取り、それを職員間で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネやスタッフがご本人とご家族の意向をお伺いし、介護担当者の意見も踏まえて、ケアプランを作成している。	6ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っています。毎月利用者の状態について話し合いを行ない、状態の変化によってその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご入所者の記録を取り、それを基にカンファレンスを開き、プランの問題点や改善点を発見してプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なケアではなく、可能な限り個人個人のニーズに対応できる体制・職員の充実を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方や、自治会長・民生委員の方々との情報交換や協力を受けて、生活を充実させるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の意向をお伺いしたうえで、協力医療機関との24時間の連携体制をとっている。また個別な通院にも対応している。	かかりつけ医は、協力医療機関に決まっていますが、24時間の連携も整っており、家族の送迎が無理な時は、個別に通院介助も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート勤務の看護師がおり、定期的な健康チェックを行い、必要時には医師と連絡を取り適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に病院は行き、ご本人の容体を確認し、可能な限り医師の意見も聞き、早期退院の援助をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所のなるべく早い時期に、ご家族にターミナルの迎え方を話し合い、ご意向に沿うように努めている。	ターミナルケアを行っており、入所時や状態に変化があれば、早い段階から、終末期について話し合わせ、同意書も作成されています。また、協力医療機関とも連携され、ホームの方針を共有し、本人・家族の意向に沿える支援がされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを掲示し、また職員研修を行い、常に迅速に対応できるように努めている。AEDの設置も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、慌てることなく対応できるように努めている。	2か月に1回独自の避難訓練をされ、年2回消防と連携された避難訓練が行われています。災害に備えた備蓄もされています。	消防の立ち会いや、近隣住民の参加も予定した避難訓練が望まれます。また、日中の避難訓練を主に行われていますが、夜間想定や地震などの避難訓練も行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者に対して決して同じ目線にならずに、常に尊敬の念を持ちプライバシーにも配慮した対応を心がけるように努めている。	利用者の方を尊重し、相手の立場に立った声かけがされています。また、プライバシーに関する研修も行われ、利用者の方の情報も守秘義務に基づき管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけのケアではなく、ご本人に選択していただく機会を設けるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活のリズムに合わせて生活していただくように、希望をお聞きしながら毎日の生活を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時と就寝時の着替えの徹底や、ご希望の方には化粧をしていただいたり、出張美容もご利用いただいて、身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員がその日にご入所者の状態や様子を見てメニューを考え、準備や片付けもできることは手伝ってもらっている。	その日のメニューは利用者の方の希望も聞き入れられたり、畑で作った野菜なども調理されたりし、できる範囲で片付けなど共に行われています。また、外食やおやつ作り・行事の際は一緒に作り、共に食事をさてれ、楽しく食事ができるよう心掛けられています。	職員はサポートに徹し、休憩時間に食事を摂られていますが、職員と利用者の方が少しでも、一緒に同じ食事を楽しめる環境を増やされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを記録して、バランスの良い食事を提供している。お一人おひとりの食べる量や食べる力を考えて、トロミや刻み食の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、義歯洗浄も促して、口腔内の清潔を保つように工夫している。また、歯科と提携して医師による定期的なチェックも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導時には、自分でできることはしている。排泄の感覚が衰えている方は、排泄チェック表を活用して排泄のリズムを把握し、観察・誘導するようにして、なるべく自立した排泄を維持するようにしている。	排泄表を活用し利用者の方の排泄パターンを把握されています。利用者の方の様子を観察しながらトイレ誘導をされ、できるだけトイレでの排泄を考え、維持できるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩や運動と適切な水分摂取を促すことで、なるべく自然な排泄をしていただくようにしている。どうしても便秘の方には適切な薬の処方でも無理のない排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の意思を尊重し、自然な形で行っている。入浴回数もその方の希望に沿うように努めている。	入浴は基本2日に1回で時間も決まっていますが、柚子湯や菖蒲湯など季節を感じ楽しく入浴が出来る工夫がされています。また、身体機能が低下したとしても、安心して入浴できるようリフトも設置されています。入浴が出来ない時は清拭をされたり清潔が保たれるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中をなるべく活発に過ごしていただき、夜は自然な睡眠を取って頂くようにしている。お昼寝が必要な方はとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットで薬の取説をフィリングして職員への周知を徹底している。また誤薬・飲み忘れに無いように、二重チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の特技・趣味などを把握し、ホーム内でそれを発揮していただく機会を持つように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食の機会を設けたり、ホームの外に出る機会をなるべくたくさん設けている。ご家族との外出も積極的にしていただくように、支援している。	気候が良い時は近くの神社への散歩に行かれています。家族に協力してもらいながら、遠くの方へ外出をされることもあります。また、受診の帰りなどには、行きたいところへドライブにいかれたり、地域の行事への参加にも力を入られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小学のお小遣いは事務所の金庫にて管理している。外出の際など必要な場合に際してお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望の強いご入所者や、希望がある場合は手紙や電話は積極的にいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家を利用したホームのため全体にゆったりした懐かしい雰囲気、庭にも畑や季節の植木を植えて、季節を感じて頂けるように工夫している。	古民家を利用した昔ながらの懐かしい落ち着いた感じのある雰囲気、キッチンからは五感を刺激でき、また、庭には畑があり季節の野菜などを栽培されています。玄関や廊下にも椅子やソファが置かれ、人の目から離れられる工夫もされており、居心地良く過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや囲炉裏端や外のデッキなどで会話や休憩ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた家具や電化製品などを希望があれば持ち込んでいただいている。	基本持ち込みには制限がなく、以前使用していた家具や思い出のある品などを使用されたり、ベッドか畳も選択でき、利用者の方が安心できる空間になっており、居心地良く過ごせる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には必用箇所には手すりを設置しており、また要らないものは置かないなど、安全に配慮して自立した生活ができるようにしている。		